

「アジア防災科学技術情報基盤の形成」コンテンツ会議 (Disaster Reduction Hyperbase (DRH) Contents Meeting)

実施概要報告書

1. 日 時 平成19年3月12日(月)～ 13日(火)

2. 場 所 地震防災フロンティア研究センター大会議室(神戸市脇浜海岸通 1-5-2)

3. 目 的

- ・科学技術振興調整費「アジア防災科学技術情報基盤の形成」(DRH-Asia)プロジェクトで構築する防災科学技術情報基盤の内容(コンテンツ)を具体化することを目的に開催した。
- ・DRH-Asia は、現場への適用性を重視する防災科学技術(Implementation Technology)を重点的に収録する方針であり、それは以下のような技術・知識情報からなる。
 - + 現場への適用戦略を持つ科学技術(Implementation oriented technology: IOT)
 - + プロセスの技術(Process technology: PT)
 - + 地域に根ざして発達し他地域へも広く適用可能な防災の知恵(Transferable indigenous knowledge: TIK)
- ・本コンテンツ会議は、1)参加者からの発表により Implementation Technology の具体的内容を明らかにすること、そのうえで2)上記の構成要素の概念を練磨すること、および3)コンテンツを記述する様式(テンプレート)をについて合意することを目標とした。

4. 参 加 者

人数 :50 名

参加国 :日本、バングラデシュ、イラン、ネパール、インドネシア、インド、ペルー、アルジェリア、中国、フィリピン、国連国際防災戦略局(ISDR)、欧州連合共同研究センター(EC/JRC))

5. 成 果(発表資料はすべて<http://www.edm.bosai.go.jp/old/m-n.html> から pdf ファイルでダウンロード可能)

会議の成果は以下のように要約できる。

- (1)DRH-Asia のコンテンツへの提案として、合計 29 件(IOT, PT, TIK それぞれ 12, 11, 6 件)の発表が行われた。個々の発表に30分の時間を充てることにより、十分な討議を行うことができた。その内容は今後 DRH-Asia の重要な構成要素となるものである。
- (2)DRH テンプレートの具体案について参加者全員による入念な討議が行われ、続いて開催された DRH-Asia 年次ワークショップへの成案を得た。
- (3)DRH-Asia の今後の活用方策について、インドからの具体的提案を含む有用な討議が行われた。
- (4)コンテンツ会議での発表は、すべて新たに決定される DRH テンプレートにまとめなおすこと、その結果を中核としてコンテンツ会議の論文集を作成することとその手順を決定した。

(報告:研究代表者・亀田弘行)

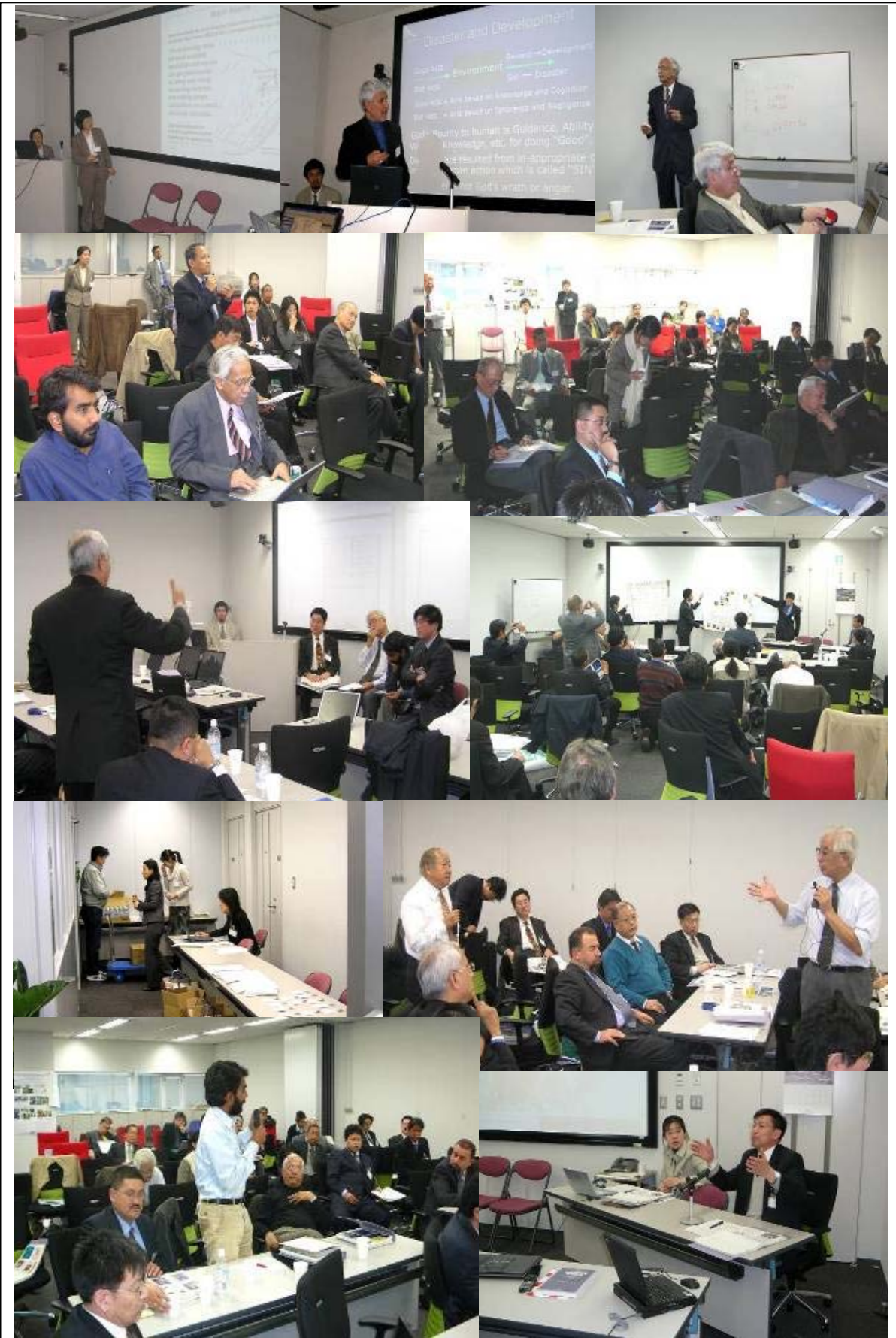


写真:「アジア防災科学技術情報基盤の形成」コンテンツ会議実施状況